

聖書：ダニエル 5：1～31

説教題：天の主に向かって高ぶり

日時：2014年12月14日

今日の章にはベルシャツアルという王が出て来ます。ネブカデネザルの後、エビル・メロダク、ネリグリッサロス、ラバシ・マルドゥク、ナボニドスという人物が王位を継承しますが、ベルシャツアルはナボニドスの息子です。彼は父と共同統治をしたようで、特に父が都を不在にしたかなりの期間、実質的に王としての役割を果たしました。その彼の時代にバビロニア帝国は終焉を迎えます。メディアとペルシャの連合王国に取って代わられるのです。

まずこの章の内容を見て行きます。ベルシャツアル王は千人の貴人たちを招いて大宴会を催し、皆とともにぶどう酒を飲んでいました。その最中に気分が高揚してでしょうか。父ネブカデネザルがエルサレム神殿から取って来た金や銀の器を持って来るように命じます。おそらくこれまでは敵の物とは言え、特別な器具として、それには手をつけずに保存して来たのでしょう。ところがベルシャツアルはそれを持って来て、ここでの飲み食いに使おうと言い出します。これは明らかに敵国の習慣や、その神をはずかしめる行為です。いくら彼らが敬って使っていたものであっても、我々にとっては何でもない。神聖な物とはせず、日常の用途に使おう！と。そしてその器でワインを飲みながら、金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を賛美します。

その時でした。恐ろしい出来事が生じます。何と突然、人間の手の指が現れ、王の宮殿の壁に文字を書きます。それを見てベルシャツアルは顔色が変わり、おびえて、腰の関節が緩み、ひざはガタガタ震え出しました。王はパニックに陥り、バビロンの知者たちをみな呼び寄せて、「この文字を読み、その解き明かしを示す者には紫の衣を着せ、金の鎖をかけ、この国第三の権力を持たせよう！」と言います。しかし例によって誰一人としてこのなぞを解くことができません。そうしてみなが途方に暮れる中、王母を通してダニエルが呼び出されることとなります。

ダニエルは文字の意味を解き明かす前に、前置きとして大切なメッセージを語ります。それは過去のネブカデネザルに関することです。ネブカデネザルは世界帝国の王として、全世界を治める権威と力を与えられましたが、高ぶったために神によって低められました。彼の心は獣の心と取り変えられてしまい、彼は自分を動物と錯覚して野獣とともに生活するようになりました。そのことを通して神こそが主権

者であり、自らはその前にへりくだって歩むべきことを教えられました。そのことを知りながらあなたは心を低くしなかった！とダニエルはベルシャツアルを責めます。そればかりか天の主に向かって高ぶった。神殿の器具を冒瀆的に扱い、偶像を賛美し、偶像に栄光を帰した。そこで神の前からこの手の先が送られたのです、と説明します。

そして文字の意味を解き明かします。その文字は「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」というものでした。これらは三つの重量の単位を表す言葉です。メネはミナ、テケルはシェケル、ウは英語のアンドの意、そしてパルシンは半分という意味です。ですからここには重さや価値を意味するメッセージが込められていると考えられます。そしてこれを動詞として読もうとすると、また違った意味が出て来ます。それらが掛け合わされた言葉としてダニエルは次のように説明します。すなわちメネは動詞では「数える」とか「定める」という意味だから、これは神があなたの治世を数えて終わらせられたという意味である。テケルは動詞で「量る」とか「評価する」という意味だから、あなたは神の量りで量られて足りないことが分かったという意味である。そしてパルシンとは「分ける」とか「分割する」という意味だから、あなたの国は分割され、メディアとペルシャに与えられるという意味である。要するにあなたは終わった！神に量られて目方が足りなかった！あなたの国は分割される！そういう意味である、と述べたのです。そしてこの通りのさばきが成就します。ベルシャツアルはその夜、殺され、メディア人ダリヨスに支配は取って代わられたのです。

このようなダニエル書 5 章の記事は、私たちにどんなメッセージを語っているでしょうか。まず最初に考えたいのは、高ぶる者は低められるという前の 4 章と同じメッセージです。今日の章の最初は華やかな場面から始まりました。王が貴人たちと大宴会を開催しました。ぶどう酒を好きなだけ飲んで、自分たちの国の繁栄を喜び祝っていました。しかしこの章の終わりで、この王とこの国は過ぎ去って行きます。私たちもこのような結果に至るものを一生懸命求めているか、と問われます。私たちがやがては過ぎ行くであろう様々なこの世の栄光に囲まれて生活しています。そしてそのようなものをたくさん持ち、誇る人たちを見て羨ましく思い、自分もそれを持つと駆り立てられる誘惑の中にあります。私は裕福でこんなに幸せに生きている、私はセレブであると語る人を見て。あるいは私はこんなに美しく、美を保って生きていると誇る人を見て。あるいは私はこんなに事業に成功して数々の成果を残して来た人間だと話す人を見て。もちろんこれらが全部悪だと言うのではあり

ません。しかし神から離れてそれらを誇り、それらを追い求めても、そういうものはみな過ぎ去ります。神の前で量られると、目方が足りないからです。にもかかわらず、私たちはそれらによって高ぶってしまいやすい。ベルシャツアルと私とは立場が違っていると私たちは思うかもしれませんが、私たちも小さな世界で彼と同じように振る舞いがちではないでしょうか。少し何かで成功すると、鼻を高くする。先週も見たように、人より良い学歴を持っていたり、良い地位に着いていたり、良い生活をしていたり…。あるいは人より教養があつたり、健康であつたり、美しかったり、評判の良い人であつたり…。そしてベルシャツアルのような態度を取っている。しかしそのように高ぶる者は神によって必ず低くされる。そのことが前章に続いて、この章でも再度語られています。

しかし前の章と違う点もこの章には見られます。前の章のネブカデネザルは低くされた後、回復へと導かれました。その一方、ベルシャツアルはそうではありません。高ぶった結果、低められるというのはどちらも同じですが、一方は回復され、一方はそのまま終わっている。これはどう考えたら良いのでしょうか。しかしここには大切なメッセージがあると思われます。すなわち、主のあわれみはいつまでもあると思つてはならないということです。前の章で、高ぶって懲らしめられた者に、なおあわれみが示されという記事を私たちは見ました。それは私たちにとって幸いなことです。主がそのような方であられることは感謝です。その一方、私たちは今日の章を通して、主はいつも、いつまでも、あわれみをくださるのではないということをおぼすのです。それには終わりがある。もうあわれみはなしとされ、決定的にさばかれる時が来る。これも私たちが聞くべき大事なメッセージでしょう。今回のベルシャツアルはダニエルが述べたように、ネブカデネザルの経験から学ぶことができました。しかし彼は何も学びませんでした。そこに示されていた警告を無視しました。それどころか度を越して調子に乗りました。神殿の器具を持ち出して、あからさまに主への冒瀆的態度を取りました。このように歩むなら、もうあわれみはない。与えられたチャンスを生かさないうなら、こういう最後が来る！そういうメッセージも私たちは前の4章と合わせて聞かなければならないのです。

私たちはどうでしょう。罪の道を進んだため、神に逆らつて歩んだため、悲惨な報いを刈り取った人たちのことを私たちは色々見聞きしているでしょう。それらは私たちに与えられている警告と言えます。それを無視して自分に当てはめないなら、私たちもベルシャツアルと同じです。あるいはそういう経験がなくても、聖書にたくさん警告があります。ノアの洪水然り、ソドムとゴモラのさばきも然り、今読

んでいるこの箇所もそうです。それを読みながら自分には関係ないとし、主の前に高ぶる生活を続けるなら、ベルシャツアルと同じ道を行っているということです。

恐ろしいのは30節の「その夜」という言葉です。この日、王は大宴会を開いていました。高ぶって思うがままに振る舞いました。そしてダニエルになぞを解き明かしてもらって、あなたの国は終わりになると言われましたが、それは起こったのはいつだったでしょう。何とその日の夜でした！思い起こすのはルカの福音書における金持ち農夫のたとえです。彼が大豊作を前にして新しい倉を建てる計画を立て、さあこれからは食べて飲んで楽しめ！と自分に向かって言ったその日に神が言われました。「愚か者。おまえのたましいは今夜、おまえから取り去られる！」と。これを私たちは単にベルシャツアルのことだと読んではなりません。これはベルシャツアルと同じ態度を持つ人みなに当てはまることです。ある人はこのことについて、これは長老教会にも当てはまると書いていて、ギクッとしました。もし長老教会が、我々の教会は正しい神学と教理を持ち、正しい信仰に立っている。だから他の教派が倒れても我々はそうはならないと高ぶってベルシャツアルのような態度を取っていれば、今晚にでも壊滅してしまうということです。私たちは急いで自分を点検しなければなりません。そしてこれは個人個人にも当てはまります。高ぶって歩んでいるなら、今夜にもそのさばきは実行されるかもしれない。「その夜、ベルシャツアルは殺され」ということが、私にも起きるかもしれない。ですから私たちは遅くならない内に、早くに高慢から離れ、神の前にへりくだって歩む者とならなければなりません。

こうしてバビロンの国は過ぎ去って行きます。あの強大な国が長くは続かなかつた。2章で見たネブカデネザルの夢に示されたメッセージの通りです。ベルシャツアルが王として治める国はこうならざるを得ないのです。この記事を読む時に思いを向けずにいられないのは、これとは対照的な、永遠に滅ぼされない国が来るという約束（2章44～45節）でしょう。その国が来ることを、この章の結びは私たちに待望させます。そしてその国の王は、この章で見たベルシャツアルとは全く違うお方であるはずでしょう。私たちはその王がどんな方であるかを今や知っています。その王は私たちの救いのためにへりくだってこの世に来て下さいました。そして父なる神の御心に最後まで服従し、十字架の死にまでも従われました。その歩みは神の量りで量られて全く欠けるところがありませんでした。それゆえ、この方の国は永遠に立ち続け、また分割されることがありません。そしてこの方が神の量りで量られて全く完全で欠けなしと判断されたように、この方につく者たちも、この方と

結ばれて、全く欠けなしと認められる恵みに生きることができるのです。

私たちはどの王を自分の王とし、またどの国に生きようとする者たちでしょうか。もしこの章で見たようなこの世のきらびやかさにひかれて、この世の栄華を求め、この世の大宴会に招かれて高ぶって歩むなら、それはベルシャツアルと運命を共にする歩みです。その国は一時的に栄えてもやがて虚しく過ぎ去って行きます。この章を読む私たちは、それとは違う国を求めるようにと導かれるべきでしょう。キリストは、このクリスマスの時、神であられる方なのにへりくだって、人となって来て下さいました。そして十字架の死に至る生涯を通して私たちの救いを勝ち取って下さいました。私たちはこの王こそを感謝して受け入れ、この王にこそ従う歩みをささげて行きたい。私たちのためにへりくだってくださったこのまことの王を知るなら、その方の前で高ぶることなどできません。残されているのはただこの王に感謝し、この王の前にへりくだって歩む歩みのみです。その方を見つめ、この方が導き入れて下さる永遠の国とそこでの大祝宴を楽しみにして、この王を受け入れ、信じ、従う歩みへ進んでまいりたいと思います。